

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

大阪男声合唱団

文京学院大学吹奏楽部

男声合唱とブラスバンドによる

Autumn Joint Concert

2014年11月2日(日)

開場 : 13:15 開演 : 14:00 会場 : 文京学院大学 仁愛ホール

主催 : 大阪外国語大学グリークラブOB 合唱団

大阪男声合唱団

協賛 : 文京学院大学

後援 : 咲耶会(大阪外国語大学同窓会)東京支部

大阪大学男声合唱団OB 会

ご 挨拶

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団
大阪男声合唱団 幹事一同

本日は、男声合唱とブラスバンドによる Autumn Joint Concert にご来聴いただき誠にありがとうございます。

初めに、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団と大阪男声合唱団並びに文京学院大学吹奏楽部との初めての合同演奏会が、文京学院大学関係者の皆様の絶大なるご支援により、本日ここ文京学院大学の仁愛ホールにて開催できますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2007年に大阪外国語大学と大阪大学が統合され、伝統ある両大学のOB合唱団の交流が始まり、既に大阪で2回合同演奏を行っています。今般、文京学院大学吹奏楽部との共演で、関東地区で初めての両大学OB合唱団の合同演奏会が開催できることになり、団員一同張り切っております。

各団と吹奏楽部の得意分野のご披露と、第2ステージ「富士山」と第5ステージ「月光とピエロ」を両大学OB合唱団の合同で演奏致します。皆様、秋の午後のひと時、男声合唱の素晴らしさとブラスバンドの軽快な響きを、ごゆっくりお楽しみ下さい。

文京学院大学 学長
川邊 信雄

この度は伝統ある大阪大学男声合唱団ならびに大阪外国語大学グリークラブそれぞれのOB合唱団のジョイントコンサートを、縁ありまして文京学院大学の仁愛ホールで開催するはこびとなりましたことに心よりお祝い申し上げます。同時に、今回の公演には文京学院大学の誇る吹奏楽部も参加させていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

両校のOBの皆様が卒業後もこうした活発な演奏活動を通して、母校の伝統を脈々と守っておられることはきわめて喜ばしいことです。さらに、演奏においてだけでなく、人生の大先輩と言える合唱団の皆様と本学の現役学生とのコラボレーションにより、どのようなハーモニーが生み出されるのかが大変楽しみなところでもあります。

今回の公演の成功をお祈りすると同時に、公演関係者の皆様、ご支援いただいた方々、ご来場の皆様のご多幸を願っております。

プログラム

I. 大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

『Spirituals』(黒人霊歌)

指揮:坂井 美樹

1. Deep River
2. Didn't My Lord Deliver Daniel ?
3. Steal Away
4. O My Golden Slippers
5. Set Down Servant

II. 合同演奏

男声合唱組曲『富士山』

作詩:草野 心平 / 作曲:多田 武彦 / 指揮:甲和 伸樹

1. 作品第壹
2. 作品第肆
3. 作品第拾陸
4. 作品第拾捌
5. 作品第貳拾壹

III. 文京学院大学 吹奏楽部

『ミニ・オータム・ライブ』

指揮:山田 祐介

1. 演歌メドレー
2. オータムシーズン
3. 花は咲く

IV. 大阪男声合唱団

『ミサ曲 ヘ長調 作品190』

作曲:J.G.ラインベルガー / 指揮:甲和 伸樹 / オルガン:坂田 百合子

1. Kyrie
2. Gloria
3. Credo
4. Sanctus
5. Agnus Dei

V. 合同演奏

男声合唱組曲『月光とピエロ』

作詩:堀口 大学 / 作曲:清水 脩 / 指揮:林 誠

1. 月夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ
4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

曲 目 紹 介

I. Spirituals(黒人霊歌)

17～19世紀、アフリカ各地から奴隷としてアメリカに強制的に移住させられた多くの黒人たちの生活は救いのない惨めなものでした。虐げられた奴隷制度の中で、讃美歌や聖書に勇気づけられ、ひたすら神の救いを求め、また現実の苦しみから逃れようとして歌ったのが Spirituals なのです。したがって、Spirituals には、旧約聖書を題材にした、祈りの歌、魂の歌が多くあります。Spirituals のリズムは彼らの故郷であるアフリカ独特のものが多く、発音も"the"ではなく"de"や、"heaven"ではなく"hebben"と歌われます。

Spirituals は代々口移しに伝えられたものなので楽譜もなかったのですが、1871年に結成されたアフリカ系アメリカ人で構成されたアカペラ・グループの Fisk Jubilee Singers が Spirituals を歌って大変な評判となり、その後、米国の大学合唱団やロジェワグナー合唱団などに歌われるようになりました。大阪外国語大学グリークラブは創設以来 Spirituals を歌い続けてきており、大切なレパートリーのひとつです。本日のコンサートでは5曲を選んでみました。

・Deep River

おお主よ、私はこの深い河を超えてあの懐かしい土地に行きたい。ヨルダン河のかなたにある私の家に帰りたい…

・Didn't My Lord Deliver Daniel ?

主はダニエルを獅子の檻からお救いくださった。だからかように信仰深い貴方も私も救われないことがあろうか。

・Steal Away

こっそり、こっそり、こっそりとイエスのもとに逃れよう。こっそり、こっそり、こっそりと故郷に逃げよう。ここにはもう長くいられない…

・O My Golden Slippers

素敵な金色のスリッパは天国への階段を登る日が来るまで履かずにおこう。
私のとても好きな燕尾服も、その朝馬車に乗る時に初めて着よう。

・Set Down Servant

座りなさい、召使いよ。いいえ、座ってなんかいられません。心が幸せに満ち溢れて、とても座ってなんかいられません。

II. 男声合唱組曲『富士山』

草野心平は、「蛙の詩人」と呼ばれることがあるほど、蛙をテーマとした詩を数多く発表していることで知られていますが、山や海を取り上げた詩作も多く、特に富士山に対しては40篇以上の詩を残しています。1973年に26篇が連作詩集「富士山」にまとめられ、「草野心平全集」の一部として出版されました。

この詩集「富士山」中の5篇を無伴奏の男声合唱組曲として発表したのが、多田武彦です。旧制大阪高等学校・京都大学で男声合唱団を中心とした合唱音楽に傾倒した多田武彦は、卒業し企業にて勤務する傍ら、作曲家清水脩氏の薫陶を受けながら男

声合唱曲の作品を数多く発表しています。

男声合唱組曲「富士山」は、多田武彦にとって、デビュー作「柳河風俗詩」に続く2つめの作品で、師である清水脩氏から「前作は歌い手の声域を気にしすぎている。男声合唱曲はもっとスケールの大きなダイナミックなものに」とのアドバイスをうけて作られたと作曲者自身が語っています。

世界的にも文化遺産として認められた富士山だからこそ、そのさまざまな情景をそれぞれの詩として繊細かつダイナミックに描くことができるのでしょう。

・作品第壹 (= 作品第一)

広大な裾野の山麓に花々は咲き乱れ、鳥や獣や人が舞い踊る宴を夢みる。

・作品第肆 (= 作品第四)

春の河原で、のどかな情景を物憂く眺めていると、草花で少女たちが作った、大縄跳び。輪が揺れるたびに近づいては遠ざかる風景。

・作品第陸拾 (= 作品第十六)

牛久(茨城県)の夕暮れに山なみを見渡せば、一段高くに黒いシルエット。

・作品第拾捌 (= 作品第十八)

紅(くれない)色に燃えるような豊旗雲(とよはたぐも)の下に黄銅色の大存在。

・作品第貳拾壹 (= 作品第二十一)

重たい雨雲に閉ざされた平野。その絶端にいきなり現れる、夕映えの姿。

Ⅲ. ミニ・オータム・ライブ

・演歌メドレー…日本の代表的な演歌3曲をメドレーにした曲です。

作曲:遠藤 実、中村 泰士 / 編曲:見岳 章、小島 里美

・オータムシーズン…枯れ葉が舞う情景をイメージした感傷的なワルツです。

作曲:黒川 さやか

・花は咲く…NHK東日本大震災プロジェクト、『明日へ』復興支援ソングとして作曲されたチャリティーソングです。

作曲:菅野 よう子 / 編曲:郷間 幹男

Ⅳ. ミサ曲 ヘ長調 作品190

J.G.ラインベルガー(Josef Gabriel Rheinberger:1839-1901)はリヒテンシュタインのファドウーツに生まれました。いわゆる「神童」で、7歳で同地の聖フローリン教会のオルガニストとなり、翌年には最初の作品が演奏されています。

1851年にミュンヘン音楽院に入学、1859年に同音楽院のピアノ教授に就任、また「4つのピアノ曲」作品1を出版。1867年にオルガンと作曲の教授となり、終生その任にあって多くの優秀な音楽家を世に出しました。1877年にはバイエルン王・ルートヴィッヒ2世よりフランツ・ヴェルナーの後任として宮廷楽長に任ぜられています。

オルガン曲、宗教声楽曲を中心に多くの作品があり、同世代のブラームス、一世代上のシューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、さらには遠くバッハの影響も見受

けられます。

ミサ曲 へ長調 作品190は晩年の作品で、ロマン派的な和声に乗って特徴のある旋律が流れる一方、要所では対位法的な構成が全体を引き締めます。各曲の見せる多彩な表情からは、作曲家の豊かな経験と確かな技術を感じることができます。

(本日は、演奏時間の都合上、Benedictusの演奏を割愛いたします。)

【各曲の大意】

Kyrie：主よ、憐れみ給え。キリストよ、憐れみ給え。主よ、憐れみ給え。

Gloria：天のいと高き所には、神に栄光、地には善意の人に平和あれ。

Credo：われは信ず、唯一の神、全能の父、天と地の造り主を。

聖霊によりて、処女マリアより御身体を受け、人となりました。

主なる聖霊、生命の与え主を、聖霊は父と子より出で…

Sanctus：聖なるかな、万軍の神なる主。主の栄光は天地に満つ。

Agnus Dei：神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

V. 男声合唱組曲『月光とピエロ』

「月光とピエロ」は、1949年に作曲され、清水脩が初代指揮者を務めた東京男声合唱団第1回演奏会に、清水脩自身の指揮で初演されました。堀口大学の処女詩集『月光とピエロ』からとられた5曲からなる組曲です。この組曲という形式は、清水脩が「月光とピエロ」で世界で初めて採用した手法といわれています。失恋や孤独に苛まれる悲しみを心に秘めて道化をしなければならぬピエロの「身のつらさ」を歌ったこの組曲は、名曲中の名曲として多くの合唱団に歌われ続けています。

1. 月夜

月夜にピエロは一人寂しくたたずむ。白い姿のピエロは月の光に濡れている。まわりを見ても恋する人コロンビーヌは現れない。あまりに事の悲しさにピエロは涙する。

2. 秋のピエロ

「秋じゃ!秋じゃ!」とO(オー)の形の口をして歌うピエロ。月のような白粉(おしろい)の顔に涙が流れる。生活のためとはわかっているものの、秋はしみじみ身に滲み、心からの涙が流れる。

3. ピエロ

白粉で真っ白な顔は、白くあかるく見えるけれども、月の光と同じように寂しい。

4. ピエロの嘆き

父無児(ててなしご)の身であるピエロの嘆き。空に輝く月とここにいる自分。生活のために泣き笑いをするピエロの深い悲しさ。

5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

月の光に照らされながら、ピエロとピエレット(女道化師)は踊り続け、歌い続ける。悲しさや嘆きを心に押し込んで、ピエロとピエレットは踊り、歌い続ける。

プロフィール

◆林 誠（大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 指揮者）

大阪音楽大学卒業、同大学院修了。1971年に日伊声楽コンクールソシエナ大賞、1976年に大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞など、1979年に再び大阪文化祭賞を受賞。1981年には小沢征爾指揮ボストン交響楽団のベートーベン交響曲第9番にソリストとして出演。1982年には芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。関西歌劇団常務理事、日本演奏家連盟会員、大阪音楽大学名誉教授。1973年以来、大阪外大グリークラブのヴォイストレーナーをお願いしていたこともあり、本団（大阪）の設立を機に、2003年10月から指揮者としてお迎えしています。

◆坂井 美樹（大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 指揮者）

大阪音楽大学音楽学部声楽専攻首席卒業。同大学大学院オペラ研究室修了。1999年にイタリアミラノに留学。「フィガロの結婚」のスザンナ役の他、様々なオペラに出演。黛敏郎作曲のオペラ「金閣寺」（女役）は東京・大阪で公演され、全国放映された。また5代目桂米團治とともにオペらくごにも出演。二期会準会員。2013年から本団（東京地区）のご指導をお願いしています。

◆甲和 伸樹（大阪男声合唱団 指揮者）

1977年大阪大学に入学し大阪大学男声合唱団に入団。技術顧問の桜井吉明氏に師事し、ベースのパートリーダー・技術委員長を務める。1982年から3年間大阪男声合唱団で副指揮者。東京に居を移して2001年の東京支部結成と同時に東京支部の練習指導・指揮者を務める。千葉県松戸市においても合唱メンバー及び運営スタッフとして活動し、松戸市民コンサート実行委員会副委員長を務める。

◆坂田 百合子（大阪男声合唱団 ピアニスト）

国立音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業。オペラ歌手故ジュリオ・バルディ夫妻のローマ、フィレンツェにおける演奏の伴奏、国内弦楽室内楽とのアンサンブル、声楽や合唱の伴奏活動をするとともに合唱の指導も行っている。これまでにピアノを高市貴久枝、岩崎淑、賀集裕子、チェンバロを新谷久子の各氏に師事。大阪男声合唱団での練習や演奏会での活動は11年になる。

◆文京学院大学 吹奏楽部

私たち文京学院大学吹奏楽部は、ここ仁愛ホールで週に2回活動をしています。人数がとて少ない部活ですが、その分個々のパートを大切に演奏をしています。学内、学外イベントに演奏する機会が多く、様々な場所で演奏させていただいています。指揮者は、文京学院大学卒業生で、現在、岩倉高等学校教員の山田祐介です。

＜出演者＞ Flute: 武馬 はるな・石井 春菜子 / Oboe: 村山 歩 / Clarinet: 石井 葵帆・高橋 実希 / Alto saxophone: 塚田 真帆 / Tenor saxophone: 矢萩 陸
Horn: 小蘭 麻里 / Trumpet: 藤井 凌 / Euphonium: 高坂 真希・藤田 翔子
Tuba: 杉山 果歩 / Percussion: 大野 早希・沼井 栞

プロフィール

◆大阪男声合唱団

1954年大阪大学男声合唱団のOB合唱団として発足、1982年から活動を本格化し関西の国公立4大学(阪大、京大、神大、大阪市大)のOB男声合唱団と東大OBの関西支部合唱団からなる「五つのOB男声合唱の集い」演奏会に参加しました。1990年代の終わり頃から社会の現役を引退したOB達が戻り、2001年7月大阪にて第1回定期演奏会を開催しました。以降毎年定期演奏会を行ってきましたが、2007年からは5年間東京公演を実現しています。東京支部合唱団は2001年に関東在住のOBで結成し、2006年からは単独で「東京男声合唱フェスティバル」に出演しています。大阪外国語大学グリークラブOB合唱団とは2012年の大阪男声合唱団の定期演奏会で初めて合同演奏を実現しました。2014年8月現在の団員数は大阪32名、東京22名の54名です。

<出演者>

1st Tenor : 辻 輝夫 国分 和夫 丸谷 隆一 高木 保 上田 勝己 高山 裕二
村田 洋一 内田 裕樹 吉識 道明* 寺尾 敏康* 松本 浩昭* 花田 武司*
2nd Tenor : 北村 栄史 富田 義人 詠田 英夫 江守 茂和 本間 真人 岡部 寛正
Baritone : 大野 堯 藤山 進 瀧山 正樹 福井 朗 宇野 肇 池田 直昭 奥村 秀策*
藤原 裕士*
Bass : 待山 仁雄 服部 道彦 中野 洋介 山邊 直基 佐々木 泰介 鈴木 啓司
甲和 伸樹 高島 志信* 大江 謙二* (*は賛助出演OB)

◆大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

大阪外国語大学グリークラブの誕生は88年前の1926年に遡ります。団員の減少から1998年に廃部となりましたが、同年東京で、そして2001年には大阪でOB合唱団が結成され、現在では大阪、名古屋、東京地区を合わせて50名を超える陣容となっています。数々の合唱曲を作曲した清水脩は在学中にグリークラブの指揮をした大先輩でもあり、清水脩の曲は我々にとって欠かせないものとなっています。最近では、2011年11月に、清水脩生誕100周年記念として、「月光とピエロ」「三つの俗歌」「日本民謡」を演奏したほか、本年5月の林誠先生の退任記念コンサートで「月光とピエロ」を、また、6月の「創部88年記念演奏会」で「アイヌのウポポ」を演奏しました。また、創部以来歌い続けているSpirituals(黒人霊歌)も本団のレパートリーのひとつとなっています。

<出演者>

1st Tenor : 加来 洋二郎 石田 康雄 伊東 昭廣 西村 信勝 板村 哲也 柳楽 行雄
佐藤 謙司 小竹 正幸 五十嵐 強 北村 照夫 保川 一治 戸田 貴之
片瀨 明広
2nd Tenor : 若林 允 西沢 毅彦 赤城 一字 木下 和夫 山本 勝昭 鈴木 惟司
柳沢 長四郎 竹尾 彰 加藤 直樹 稲積 和典
Baritone : 野田 大祐 小笠原 肇 三神 徹 新出 武雄 山野 善生 西川 哲朗
木村 秀影 岸田 勝昭 浜崎 慎吾 松岡 一仁 河島 靖夫 鶴飼 茂
岸本 保 松村 尚人 長尾 俊一 福田 洋之
Bass : 佐藤 文隆 村主 寧民 森 滋 梶江 靖史 大井 耐三 真鍋 一史
南 雄次 樽井 一仁 上崎 雅也 前田 芳秀 山口 伸 秋山 正樹